

高品質なトマト・キュウリがずらり ～県施設野菜共進会(野菜の部)～

県施設野菜組合連合会(事務局:全農かながわ)が主催する「第45回神奈川県施設野菜共進会(野菜の部)」が、4月8日、県立フラワーセンター大船植物園で開催された。県内10地区からトマト77点、キュウリ86点、合計163点が会場に集まった。

県農業技術センターの北宜裕所長が審査長となり、県職員や市場代表者らと共に、色や形、大きさや病害虫痕の有無などを審査した結果、神奈川県知事賞に田中浩一さん(綾瀬支部)のトマト(風林火山7)と、深田和夫さん(平塚支部)のキュウリ(極光607)が輝いた。その他にトマト9点、キュウリ11点が特別賞に選ばれた。

審査講評では「今年は2～3月頃の光量が少なく、トマトはその影響で筋ぐされ病などが発生しやすい条件だったが、入賞した出品物は高い生産技術で良い品を揃えた。品種が多様化しており、キュウリは特に品種の変遷が見られる」と評した。

市場関係者の一人は「高い生産技術で良い品を出しても、選別が雑だと市場での評価が下がってしまう。今回、JA湘南管内のキュウリが多く入賞したので、産地には励みになり、また他産地にとっては刺激になるのでは」と話し、「消費者は見た目の良い品物から選ぶので、共進会に出すような品を市場にも出荷し、神奈川県産品の評価を高めて頂きたい」と要望した。また別の市場関係者は「栽培品種が統一されていないので、神奈川県産として本当に栽培しやすい品種を査定し直す事も必要では」と付け加えた。

施設連関係者は「今年始めて出品された『風林火山』は、トマト黄化葉巻病耐性を持つ品種。耐病性品種が次々と開発される中、生産者は各自で栽培しやすい品種を選択するため多様化している」と説明した。

審査終了後に行われた即売会では、春の花を鑑賞しに訪れた大勢の来園者に県産トマト・キュウリの生産技術の高さをPRした。



県内から選りすぐりの施設野菜が集まった



慎重に特別賞22点を選出した



審査終了後に行った即売会には、大勢の来園者が立ち寄った

平成28年度神奈川県施設野菜共進会
(野菜の部) 審査結果について

◎ 特別賞

22名

平成28年4月8日(金)

品目	品種	氏名	支部	特別賞
トマト	風林火山7	田中浩一	綾瀬	神奈川県知事賞
キュウリ	極光607	深田和夫	平塚	神奈川県知事賞
キュウリ	ハイグリーン 21	上原正二	平塚	農林水産省生産局長賞
トマト	CF桃太郎 はるか	清田哲司	平塚	神奈川県議会議長賞
キュウリ	極光607	山崎真一	平塚	神奈川県農業会議会長賞
トマト	CFハウス 桃太郎	斉藤博	平塚	神奈川県農業共済組合長賞
キュウリ	極光607	上原敏行	平塚	神奈川県農業共済組合長賞
トマト	CF桃太郎 はるか	渋谷康宏	藤沢	神奈川県農業協同組合中央会会長賞
キュウリ	極光607	峰尾勝	綾瀬	神奈川県信連経営管理委員会会長賞
トマト	CF桃太郎 はるか	臼井秀企	平塚	全農神奈川県本部運営委員会会長賞
トマト	麗旬	石井大輔	鎌倉	神奈川県施設野菜組合連合会会長賞
キュウリ	ハイグリーン 21	松井岩次	平塚	神奈川県施設野菜組合連合会会長賞
トマト	マイロック	木原米雄	厚木	神奈川県種苗協同組合理事長賞
キュウリ	マジカル 1号	和田浩明	藤沢	神奈川県種苗協同組合理事長賞
キュウリ	極光607	高橋祐樹	綾瀬	神奈川県青果物卸売市場連合会会長賞
トマト	風林火山	杉浦克己	鎌倉	金港青果株式会社社長賞
トマト	CFハウス 桃太郎	富塚祐介	平塚	横浜丸中青果株式会社社長賞
トマト	CF桃太郎 はるか	行谷誠一	平塚	横須賀青果物株式会社社長賞
キュウリ	マジカル 1号	加藤保	藤沢	横浜丸中青果(株)湘南支社社長賞
キュウリ	アドニスK	田中浩一	綾瀬	平塚中央青果卸売株式会社社長賞
キュウリ	極光607	上原晃也	平塚	神奈川県青果株式会社社長賞
キュウリ	ハイグリーン 21	川口ツルエ	綾瀬	J A 全農青果センター(株) 神奈川県センター場長賞